

# 令和2年度 九州地方ダム等管理フォローアップ委員会

## 議事概要

1. 日 時： 令和3年2月2日（火） 14時30分～17時30分
2. 開催方法： WEB 会議
3. 出席者： 小松委員長、嬉委員、江口委員、大矢野委員、玉泉委員、楠田委員、古賀委員、杉尾委員、馬場委員、松井委員、矢野委員（全委員出席）
4. 議事要旨：

(1) 九州地方ダム等管理フォローアップ委員会 規約改訂について【審議】

- ・委員交代等の規約改訂について承認された。

(2) 定期報告書（案）について【審議】

鶴田ダム及び緑川ダムの定期報告書（案）について審議された。

各委員より出された主な意見等は下記のとおりである。

① 定期報告書（案）に関する共通事項

- ・ 貯水池内の堆砂については、計画値に沿った管理のみならず、降雨特性の変化による土砂生産の活発化も踏まえて、常に警戒感を持って管理にあたって欲しい。
- ・ 水質について、負荷源からダム湖への流入過程の理解を進める等、データを詳細に分析することで、水質保全に寄与するような解析を続けて欲しい。
- ・ （負荷量の参考となる）家畜頭数について、統計上の課題はあるが、流入水質への影響分析に資することができるよう、整理方法の工夫を検討して欲しい。
- ・ 定期報告書について了承する。
- ・ 委員会からの意見等は、趣旨を踏まえて定期報告書に反映し、管理に活かして欲しい。

② 鶴田ダム定期報告（案）に関する事項

- ・ 外来水草（ホテイアオイ、ボタンウキクサ）が過去に確認されている流入支川は、負荷量等の調査を行うとともに、繁殖が小規模な段階で撤去すると良いと思われる。

- ・ 外来水草の監視及び回収は、ドローンの活用や発生初期の回収等により効率化を図ることが効果的と思われる。
- ・ 外来水草を早期に絶滅させるためにはダム湖に流入した水草の駆除対策と上流域の発生源対策の2つの対策を同時並行で進めることが効果的と思われる。
- ・ 水草が繁茂していない過年度においても、底層が無酸素状態となっている場合がみられ、底生動物及びそれらを餌とする両生類や爬虫類への影響も想定されることから、これらの調査が望まれる。

③ 緑川ダム定期報告（案）に関する事項

- ・ 貯水池内の堆積土砂を撤去する場合は、下流の河床材料も見ながら土砂還元を検討して欲しい。
- ・ 外来植物（アレチウリ）の対策は、他の生物よりも駆除の効果が出やすいと思うので、地域との共同作業なども取り入れながら積極的に駆除に取り組んで欲しい。
- ・ 現時点では植物に大きな変化はみられていないようであるが、ニホンジカが確認されているため、引き続き林床植生の減少が発生していないか注視して欲しい。  
（モニタリング部会の報告でもシカの食害対策について同様の質問があった）
- ・ 緑川ダム周辺では確認されていないようであるが、農産物等に被害を与えるアライグマや近年個体数が減少しているニホンカモシカについて、今後見つかる可能性もあるため注視して欲しい。
- ・ 砂地に生息する底生魚類（スナヤツメ）の生息状況については、堆砂進行や河床材料の変化との関連が推察されるため、今後の調査、モニタリングが望まれる。  
（モニタリング部会の報告でもスナヤツメと河床材料について同様の意見があった）

(3) 大分川ダムモニタリング部会の実施状況について【報告】

- ・ モニタリング部会の実施状況について事務局より報告し、了承された。

(4) 小石原川ダムモニタリング部会の実施状況について【報告】

- ・ モニタリング部会の実施状況について事務局より報告し、了承された。

(5) 立野ダムモニタリング部会の設置について

- ・ モニタリング部会の設置について事務局より説明し、承認された。

(6) 年次報告書について【報告】

- ・ 令和元年度の管理及び運用状況を取りまとめた年次報告書について事務局より報告し、了承された。
- ・ なお、年次報告、モニタリング部会報告の共通事項として、環境DNAの活用等、新たな調査方法の採用も検討して欲しいとの要望があった。

以上